

武漢事務所週刊ニュース 17号 (2012年8月4日~8月10日)

CNNのホームページで中国の六景を評したところ武漢の黄鶴楼が選ばれる

8月9日 長江ネット

昨日、CNN iReportにて中国六景を選出したところ、武漢の黄鶴楼の名前が挙がった。

記者がCNNのiReportのページを確認したところ、7月25日に最も旅行客が喜ぶ6つの中国の観光地として黄鶴楼を上げている。これは、中国を観光訪問した事のある人により選ばれたもので、旅行中最も深い印象に残っていると紹介されている。読者の推薦によると、最終的に選ばれた観光地は、故宮、鼓浪嶼、北京東華門屋台街、北海公園、箭扣長城及び湖北省黄鶴楼である。

カナダの読者は2009年に黄鶴楼を訪れた際に撮った写真をアップし、この5階建ての建造物は中国でもっとも名を馳せているタワーの一つで、黄色い鶴に乗った仙人が訪れたことを記念して建てられたものであると紹介している。

呉家山に中国中部初の日系企業自動車部品製造産業パークを建設

8月10日 荊楚ネット

昨日、アジア最大の自動車ライト製造業者である日本スタンレー電気株式会社が呉家山にて自動車ライトの生産基地建設を着工した。

この基地への第1期投資額は7,000万ドル(=約54億6,000万円:1ドル=78円で計算)であり、主に自動車やオートバイのライトや関連電子部品の研究開発、生産、販売及びサービスを行う予定である。2013年の操業開始後は年間生産額が12億元(=約156億円:1元=13円で計算、以下同様)になる。2期工事は2015年に始まる予定であり、完成した場合2倍の生産が可能となる。呉家山台湾商工業パークエリアの責任者によると、近いうちに東海敏実などの日系自動車部品企業が進出する予定である。これらはスタンレー電気とともに中部における初の日本の自動車部品産業パークの一部となる。

日系企業自動車部品産業パークは東西湖区国道107号線の南側、慈恵大道の北側に位置し、第1期の総面積は約3500ム(=約233.1万㎡:1ム=666㎡で計算)である。

産業パークには日本で一流の自動車部品生産工場が集まり、研究開発、行政事務所、ビジネス、サービスが一体化している新しいエコ産業パークとなる。

進出企業の総投資額は75億元(=約975億円)、年間生産額は200億元(=約2,600億円)、年間税額は30億元(=約390億円)に達する見込みである。今のところ、エフテック、アイパック、森六テクノロジー、日本プラスト、林テレンプなどの10社余りの日本自動車部品資産企業が進出している。自動車部品産業チェーンはある程度の規模になっている。

今年の3月現在で、武漢に進出している日本企業は240社となっており、将来的には武漢に投資する日本企業にとっては、自動車部品製造分野は重要な投資先となる。武漢スタンレー電気有限公司の責任者によると、中国自動車市場は飛躍的に発展しており、このことが中国の内地に投資する主な要因となっている。